

謎

1

『常陸国風土記』は、いつ誰が編さんしたのか？

成立年代については、いろいろな説がありますが、誰がについては、四六駢儷体(しろくべんれいたい)と呼ばれる美文体から、藤原宇合が有力とされています。

謎

2

『常陸国風土記』が現在まで伝わった理由は？

風土記は正本と副本の2冊が作成されましたが、正本は失われ、副本も行方不明になります。江戸時代になると、水戸藩によって、加賀前田家が保管していた加賀本を筆写したのが彰考館本です。現在までに伝わる『常陸国風土記』は、この彰考館本の写本を基本としたものです。

謎

3

晡時臥山(くれふしやま)はどの山か？

那賀郡の条に「晡時臥山」がでてきます。この山は、現在の笠間市と水戸市にまたがる朝房山(あさぼうやま)であると言われています。一方、石岡市の龍神山が晡時臥山であるという説もあります。

謎

4

『常陸国風土記』の中に登場する賊人は誰？

常陸国風土記のなかには「国樸(くず)」や「土蜘蛛(つちぐも)」といった差別的な表現でえがかれる「悪者」が登場します。しかしながら、かれらこそは地元で文化を花咲かせた先住民なのです。風土記は自らの政権の正当性を訴えるための書物でもありました。

謎

5

巨人は今も存在している？

那賀郡の条に巨人伝説があります。その巨人が貝を食べて捨てた場所が、水戸市にある大串貝塚と言われています。そして、巨人は石岡の代田にもやってきて伝説を残していきました。代田には巨人伝説に因んだ民俗行事が今でも続いています。

謎

6

ヤマトタケルノミコは天皇だった？

『常陸国風土記』には、「倭武天皇」が何度も登場します。ヤマトタケルノミコのことです。天皇に即位していないヤマトタケルノミコが、英雄として活躍し、県内でもいろいろな伝承を多く残しています。

謎

7

富士山よりも筑波山がすごい？

筑波郡の条には、富士山と筑波山にまつわる伝承が書かれています。『常陸国風土記』の中では、日本の最高峰である富士山より、筑波山の方が人々に親しまれる山とし、それは擢歌(かがい)の起源へとつながります。